



おらん舎人活動報告（江北ひまわり園パン販売）

▼大好評のパン販売！



2023年（令和5年）12月 年の瀬マルシェを開催するにあたり江北ひまわり園パン販売出店依頼しました。当日は長蛇の列となり開始30分で売り切れとなりました。

年の瀬マルシェをきっかけに舎人あかしあ園でのパン販売がはじまりました。

舎人あかしあ園での記念すべき第1回定期販売は2024年（令和6年）1月26日（金）売れ行きを心配していましたが100個程のパンが30分で完売となる盛況ぶりでした。

購入された方々はお気に入りのパンがあるようです。私のお勧めは「黒ゴマあんぱん」です。是非皆様もパン販売の時には、舎人あかしあ園にお立ち寄りいただきお気に入りのパンを見つけてください。

※江北ひまわり園パン販売 第4金曜日 12：45～13：45
舎人あかしあ園内玄関

（記 河瀬）



研修報告（内部研修）

—2024年—

3月 身体拘束防止研修

—2025年—

4月 虐待防止マニュアル読み合わせ、
チェックリスト作成

6月 感染症研修（手洗い）

7月 窒息・誤嚥



防災訓練

—2025年—

5月 全体避難訓練

（避難経路確認、自衛消防組織図、
役割確認）

6月 消火器訓練・通報訓練

7月 防犯訓練



施設長より

令和7年度最初の「人舎人」をお届けします。

今年は、「大阪・関西万博2025」の開催が華やかに行われる一方で、「コメ不足」というあまりうれしくない話題など色々ありますが、舎人あかしあ園も「開設10周年」という節目の年となります。今までご協力いただいた方々へ感謝の気持ちを持ちながら、これからの10年に気持ちも新たに頑張っていこうと思っています。引続き皆さまからのご理解とご協力をお願いいたします。

（記 市原）



社会福祉法人あいのわ福祉会
Social Welfare Juridical AINOWA Organization

〒121-0832 東京都足立区古千谷本町2-25-11 TEL03-3854-1741 FAX03-3854-1742

社会福祉法人あいのわ福祉会 舎人あかしあ園 発行責任者 市原純哉

第39号

令和7年7月31日発行

ワ

ーク活動のご紹介 ～The theme is recycling～

新年度がスタートしてあっという間に3か月が経ち、日々、利用者の皆さんと一緒に沢山の事を体験・経験する事で、新たな気付きやコミュニケーションの幅が広がっている、そんな毎日を送っています！今回は、年度始めの広報誌という事で、1便グループの活動について、改めて紹介させていただきます。

1便グループでは、集団生活の中でみんなと一緒に活動に取り組むという事を大切につつ、「ご本人の出来る事」にも目を向け、利用者の方一人ひとりの障がいの特性や意欲に合わせて「社会貢献・社会との繋がり」が出来るよう、『ワーク活動』を実施しております！

ワーク活動のテーマは「リサイクル」

◎ペットボトルリサイクル

資源の再利用として、園内で出た空きペットボトルを洗浄し、ラベルはがし、キャップ外しを行っています。室内での活動だけで完結するのではなく、コンビニに設置されている回収機にボトルを入れに行ったり、キャップは地域学習センターに届けに行きます。利用者の皆さんと実際に足を運ぶことで地域の方々の目に触れ、私たちのこと、施設のことについても活動を通して知って頂く機会となっています。

◎メモ帳づくり

足立区内の企業様から頂いた、本来は廃棄に

する予定の紙を使用して作成しています。表紙のデザインやペイントにはこだわっていて、毎回、創意工夫を凝らしています。その他にもカットされた紙を揃えて束ねたり、背表紙に製本テープを貼って仕上げています。出来上がったメモ帳の販売はしていませんが、活動内容を知ってもらうためのツール（名刺代わり）として外部の方と関りがあった際にはお配りしていて、大変好評です！

今後も利用者みなさんと沢山の事を一緒に経験していきたいと思っております！（記 安藤）



2023年より、2便グループではiPadを活用した支援に積極的に取り組んでいます。今回のご紹介では、iPhoneおよびiPadに搭載されているアクセシビリティ機能（障がいの有無にかかわらず、すべての人がテクノロジーを利用できるようにするための配慮や機能）と、iPadを使用する際に活用している自助具（動作の困難を補うための道具）についてご紹介いたします。

アクセシビリティ機能紹介

▶▶▶ 【AssistiveTouch】…iPhoneやiPadの画面に「便利なボタン」を表示して、タッチ操作を簡単にする機能。



AssistiveTouch（アシスティブタッチ）は、iPadやiPhoneの画面上に仮定のボタンを表示させ、さまざまな操作をより簡単に行えるようにする機能のひとつです。

ホームボタンや音量ボタンの操作、再起動、スクリーンショットの撮影など、物理的なボタン操作が難しい場合や、スワイプといった指の動作が困難な方にとって、非常に便利な補助機能です。

また、左図の「★」のカスタム項目の中にある「カスタムジェスチャ」を登録することで、ピンチ操作、複数本の指でのスワイプ、特定の場所へのタップの繰り返しなどをあらかじめ記録し、簡単に再現できるようになります。

また、「音声コントロール」でも、ジェスチャ操作を事前に登録することで、音声コマンドだけでさまざまな操作を実行することが可能になります。例えば、GPS機能を活用し、実際に移動しながら遊ぶ位置情報ゲームを、音声コマンドのみで操作して楽しんでいる利用者の方もいらっしゃいます。

これらの詳細については、Apple公式サイト「①AssistiveTouch」「②音声コントロール」と「③人舎人第36号記事（P3-4）」の紹介ページをご覧ください（右のQRコードからアクセスできます）。

例えば、写真アプリでのピンチズームや、ゲームでの特定のフリック操作なども、AssistiveTouchメニューからワンタップで実行可能です。

①AssistiveTouch (apple)



②音声コントロール (apple)



③音声コントロール第36号記事



自助具紹介

▶▶▶ 【自助具①】…「ヘッドポインタ」と「Apple Pencil」の装着

ヘッドポインタ（右写真）にApple Pencilを取り付けてiPadを操作しています。Apple PencilはiPadとBluetooth接続されており、筆圧や傾きの情報をやり取りしながら、画面上の位置を高精度に検出できます。この工夫により、利用者の方ご自身で目的の位置を正確にタッチして操作できるようになりました。帰宅前の余暇時には、定期的に出場しているオセロ大会の優勝を目指し、オセロアプリ（AIとの対戦）を楽しみながら有意義に時間を過ごされています。※当初は100円ショップで販売されているタッチペンをヘッドポインタに装着し、軽くタップして試してみましたが、反応しなかったため、代わりにApple Pencilを利用することにしました。

▶▶▶ 【自助具②】…100円ショップの「タッチペン」に「練り消し」を装着

100円ショップで販売されているタッチペンに「練り消し」を取り付けることで、手のひらや指にしっかりとフィットし、タッチペンを落とさずに操作できるようになりました。また、目的の位置を正確にタップすることも可能になりました。右の写真は、補助代替コミュニケーション（AAC）アプリ「ドロップトーク」を使用している様子です。手や腕の可動域を考慮し、3×2のシンボル（イラストやリンク）を配置しています。このレイアウトにより、他の利用者の方や支援員とコミュニケーションを図ることができ、主に今週の予定や伝えたいことなどを共有しています。

練り消しを3つ購入し、混ぜて好みの大きさに調整しています。

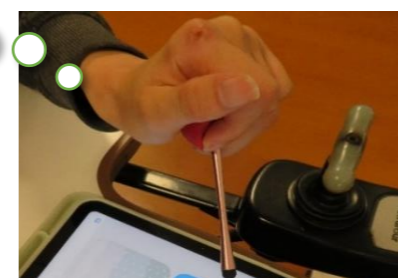
▼ヘッドポインタにApple Pencilを装着



▼オセロアプリ操作（ヘッドポインタ装着）



▼タッチペンに練り消しを装着



▼ドロップトークを実行



登録したイラストをタップすると読み上げられます。